

小松  
食の  
歳時記  
冬の味 「大根寿し」

前田利常公が寛永十六年（一六三九）に下関を廻って大阪へ加賀藩の米を廻送したのが北前船の始まりとされている。江戸時代に大阪と蝦夷（北海道）を廻船した北前船。小松の安宅も、加賀の橋立や金沢の金石と並ぶ北前船の重要な寄港地として栄えた。

北前船が北海道から運んだ主な交易品の一つが鰯。その鰯によつて生まれたのが小松で古くから食べられている大根寿しだ。同じく石川の冬を代表する郷土料理の「かぶら寿し」は蕪と鰯を使うのに対し、大根寿しは大根と鰯を使う。昔は、魚屋が漬け込み正月用の珍味として得意先へ贈っていたそうだが、かぶら寿しは身分の高い人用で、庶民は大根寿しだったとか。

大根寿しは、かぶら寿しより甘みが抑えられていて、さっぱりとした味わい。肉厚の大根に蕪や鰯の旨みが染み込んでいて旨いものだ。



※大根寿しは冬期限定で、道の駅こまつ木場潟、JAあぐりでお買い求めいただけます。

加賀の國 咲く Love こまつ  
「2013 全国さくらシンポジウム in 小松」



2013 全国さくらシンポジウム in 小松

■開催日時／  
2013年4月11日(木曜日) シンポジウム、交流会  
2013年4月12日(金曜日) 現地見学

■開催場所／  
シンポジウム 石川県こまつ芸術劇場うらら  
交流会 栗津温泉 辻のや花乃庄  
現地見学会 芦城公園ほか

■主催／  
2013 全国さくらシンポジウム in 小松実行委員会  
公益財団法人 日本花の会

■お問い合わせ先／  
2013 全国さくらシンポジウム in 小松実行委員会事務局  
TEL 0761-24-8102 FAX 0761-24-8189

公益財団法人「日本花の会」が三十一年前から各地で開催してきた「全国さくらシンポジウム」が今年、小松市で開催される。桜の名所の維持管理、桜に関する研究・栽培管理や保全などの技術向上、桜の文化的な探求、桜による観光振興や景観美化などの地域づくりなど桜によるまちづくりを目的として開催されるもので、初日は小松市出身の写真家織作峰子さんの記念講演の他、本誌10Pでも紹介した千恵子桜ファンクラブ会長の濱田みちるさんの活動報告、二日目は現地見学会が行われる。

自然人も、やさしいね

「こまつ  
もん」  
komatsu  
mon

winter 2013 vol. 2

特集  
前田利常公と小松  
北限の「小松いぐさ」  
小さな旅 郷谷川沿いを尾小屋まで遡る

こまつもん Winter 2013 vol.2

2013年2月発行

発行／小松市農林水産課環境王国こまつ推進本部 TEL: 0761-24-8078

編集／チームリアルこまつ



環境王国こまつ

# 北限のいぐさ 「小松いぐさ」

前田利常公と小松の気候  
そして農家の努力が生んだ強くて美しい畳表

小松でいぐさの栽培が始まったのは室町時代で古い歴史を持つ。産業として発展したのは、江戸時代の一六四〇年、小松城で藩政を取り仕切っていた加賀藩三代藩主前田利常公がいぐさの栽培と畳表の製織に力を入れたことで生産量が拡大した。やがて小松いぐさで織り上げた畳表は徳川幕府に献上される名品となり、また、北前船で北海道にも運ばれたと言う。

いぐさは日本各地で栽培されてきたが、主要産地は西日本。小松はいぐさ栽培の北限に当たり、十一月に植え付けた苗は、雪に覆われたまま春を待つ。降雪量が多くすぎたり、冬の時期が長すぎたりした場合、いぐさの苗は冬の寒さに耐えられず、一方で冬が厳しくないと強くしなやかないぐさには成長しないという。小松の寒さ、降雪量がちょうどいぐさに合っていたのだ。また、二毛作栽培の九州では七月の梅雨明け早々に刈り取りが、小松ではいぐさの茎が硬く充実するのをじっくり待って、真夏に一度だけ刈り取る。さらに昔ながらの天然泥染めを行っていることも小松いぐさを使う畳表の特長だ。

表皮が硬くて輝きがある小松のいぐさを使った畳表はクッション性に富みながら摩耗しにくく美しい。だから地元だけでなく北陸、東北、北海道と日本海側を中心で小松畠表のファンが全国にいる。

しかし、いぐさの栽培は稻作と比べて多くの手間と費用がかかる。特に、天然泥染めによる土埃の中での作業は辛苦なものがある。さらに、廉価な中国産の畳表が流入したことで、小松いぐさの栽培農家は昭和三十年の最盛期には一三九五戸だったのが、今では宮本さん一戸だけとなり、作付面積も最盛期の三百ヘクタールから0.6ヘクタールへと大幅に減少してしまった。

しかし、昨年の五月に小松いぐさが石川県の地域産業資源に認定されたことをきっかけに、農商工連携により、小松市内の畠表や家具工房などのコラボレーションで新規商品開発の取り組みも始まっており、今後、小松いぐさ、小松畠表を使った新しい商品が登場し、ブランド力がさらに向かう中で、小松いぐさを栽培しようとする農家が出てくることが期待されている。



昭和42年頃のいぐさの収穫の様子。昭和40年頃からの高度経済成長による建築ラッシュにより、畠表は「青いダイヤ」と呼ばれていた。家族、親戚総出での作業だった。休憩時間にうどんを取り寄せて食べるのが楽しみだったという。(写真:宮本隆史さん提供)



小松畠表は畠一枚あたり通常4,500本のところを5,000本以上のいぐさを使って織り込むため、厚くてきめ細やかな畠表に仕上がる。このため小松畠表は畠表を裏返して再利用できる。



現在は刈り取りも機械化され多少、作業は楽になっている。

## 島内たたみ店の「加賀小松表置き畠」

小松いぐさ農家の宮本さんとともに、小松いぐさの活性化に取り組む、小松市の島内たたみ店が作る「加賀小松表置き畠」。熟成された小松産いぐさを使用していて、適度なクッション性があり、フローリングのように硬くないので、赤ちゃんや小さな子供が転んでも大丈夫。女性でも簡単に置くだけで畠の空間ができ、片付けることができとても人気の商品となっている。

問い合わせ  
島内たたみ店MAP[15ページ①]  
小松市串町南6  
フリーダイヤル 0120-44-2043  
pick up▶全国発送可能



小松城三の丸跡の芦城公園内の茶室「仙叟屋敷ならびに玄庵」にも、小松畠表が使われている。畠は、大昔から日本に存在するが古くは藁を重ねただけのものだった。現代の畠に近づくのは平安時代に入ってからであり、その当時は板床に敷くクッションの様な感覚で使われていたが、室町時代に入ると、書院造の登場によって部屋全体に畠が敷かれるようになり、やがて茶の湯が広まることで、正座と共に普及していった。

仙叟屋敷ならびに玄庵MAP[15ページ②]  
小松市丸の内公園町19番地 芦城公園内

雪の下でじっと耐えるいぐさ。この厳しい環境が丈夫で美しいいぐさを育てる。



前田利常公と小松の気候

そして農家の努力が生んだ強くて美しい畠表



加賀藩三代藩主、前田利常公は歴代藩主の中でも名君と呼ばれ、伊達政宗からも「日本一大名」と評された。

利常公が小松城を隠居城とし、城の増築、神社仏閣の造営に当時の名人・名工を数多く小松に招き、家臣やその家族が移住することで小松は城下町として整備された。また利常公は小松絹の発展や九谷焼・小松瓦・茶・畳表なども保護奨励し、現在にも続く小松の産業を育てた。

もし、利常公という稀代の名君が存在しなかつたら、あるいは小松城を隠居城としなかつたら、小松市の今は大きく異なっていたに違いない。

# 前田利常公と小松

## 小松城天守台の石垣の美



築城技術がピークに達した時代の石垣は、切込ハギと呼ばれる工法で金沢城にも使われている金沢産の戸室石が2割と地元小松産の鶴川石が8割の割合で隙間なく精緻に組み合わされている。また勾配がほぼ垂直になっているのも特徴。

小松城天守台 石垣▷MAP[15ページ⑤]  
小松市丸内町ニノ丸15[市役所前バス停から徒歩10分]

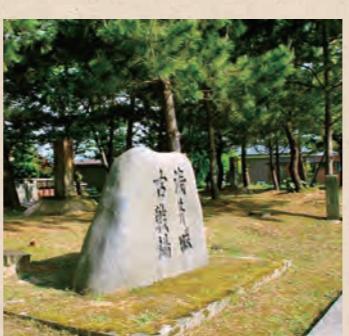


那谷寺 三重塔▷MAP[15ページ⑥]

小松市那谷町ユ122  
pick up▶国指定重要文化財

(※)ブルー・タウト  
ドイツの建築家。桂離宮をはじめ、伊勢神宮・飛騒白川の農家および秋田の民家などの美は、タウトにより「再発見」されたと言われ、日本人の文化・芸術に大きな刺激を与えた。

小松天満宮▷MAP[15ページ⑧]  
小松市天神町1 TEL:0761-22-2539



浅井戦の戦いで討死した前田方の長家九士の墓が木立の中に散らばって残っている。それらの碑は、皆それぞれの倒れた方向に向けて建てられていると言われている。

浅井戦の古戦場▷MAP[15ページ⑦]  
小松市大領町137・138番地

養老元年（七一七年）泰澄法師が、千手觀音を安置したのが始まりとされる那谷寺。南北朝時代に戦乱に巻き

城下町の整備と寺社再興  
美しい那谷寺の三重塔

利常公は、寺社仏閣などの再興・造営、造園などの土木工事にも情熱を注いだ。小松の那谷寺、小松天満宮の他、羽昨の妙成寺、高岡の瑞龍寺など、現在、重要な文化財として旧加賀藩領内に残る多くの有名建造物を作った。

また、利常公は小松の郊外にあった多くの寺社を城下に集め、計画的な町割りを行い、城下町を整備した。城や寺社の造営のために多くの職人が城下に集まり、また木工事にも情熱を注いだ。小松の那谷寺、小松天満宮の他、羽昨の妙成寺、高岡の瑞龍寺など、現在、重要な文化財として旧加賀藩領内に残る多くの有名建造物を作った。

利常公は、寺社仏閣などの再興・造営、造園などの土木工事にも情熱を注いだ。小松の那谷寺、小松天満宮の他、羽昨の妙成寺、高岡の瑞龍寺など、現在、重要な文化財として旧加賀藩領内に残る多くの有名建造物を作った。

また、利常公は小松の郊外にあった多くの寺社を城下に集め、計画的な町割りを行い、城下町を整備した。城や寺社の造営のために多くの職人が城下に集まり、また木工事にも情熱を注いだ。小松の那谷寺、小松天満宮の他、羽昨の妙成寺、高岡の瑞龍寺など、現在、重要な文化財として旧加賀藩領内に残る多くの有名建造物を作った。

賛した桂離宮もは前田家の豊富な財力なしでは完成されなかつた。

利常公は寛永文化の大スポンサーとして、和製ダビンチなどとも呼ばれ、建築、造園、茶道、華道、作陶などあらゆる分野で活躍した小堀遠州や金森宗和らと交流を持ち、千宗室を召抱え、当時の名工、名人と呼ばれる人たちを加賀に招聘した。そのことが、現在の小松を含めた石川県の伝統工芸や茶道、和菓子、その他の加賀文化の創出につながることになった。

利常公は寛永文化の大スポンサーとして、和製ダビンチなどとも呼ばれ、建築、造園、茶道、華道、作陶などあらゆる分野で活躍した小堀遠州や金森宗和らと交流を持ち、千宗室を召抱え、当時の名工、名人と呼ばれる人たちを加賀に招聘した。そのことが、現在の小松を含めた石川県の伝統工芸や茶道、和菓子、その他の加賀文化の創出につながることになった。

## 北陸における「関ヶ原合戦」、浅井戦の古戦場

慶長五年（一六〇〇年）、関ヶ原合戦のおよそ一か月前、徳川家康に味方した金沢城主・前田利長と、石田三成に味方した小松城主・丹羽長重の小松での戦いは後に「浅井戦の戦い」と呼ばれ、関ヶ原合戦の前哨戦として、前田家が加賀百万石の大名となる決め手の戦であつた。

この戦は相互に人質を入れることで和議が成立したが、和議の条件として、前田家から小松城主の丹羽家への人質となつたのが、当時まだ八歳だった前田利家の四男、猿千代（後の利常公）だった。利常公はこの時から四年間、八歳から十二歳という多感な時期を小松城で過ごしている。それからおよそ四〇年後、利常公は少年時代を過ごした

在りし日の小松城は金沢城のおよそ二倍、面積十万坪を越える広大な湖沼の中に複数の曲輪を浮かべた世にも珍しい浮城であつた。本丸内にあつた最も大きい曲輪「葭島」内は、なんと花畠があつたという。現存する天守台の上には、二重三層の数奇屋造の本丸櫓（やぐら）があった。

小松を隠居の地に選ぶことになる。

## 寛永文化の大スポンサー、利常公

前田家は豊臣恩顧の大名であり、江戸幕藩体制下では最大の大名であつたため、些細なことで徳川家から謀反を疑われた。そのため利常公は幕府の警戒を和らげるために早々と家督を徳川家康の孫にあたる嫡男の光高に譲つて、自分は小松城に隠居する。また凡庸を演じるためにわざと鼻毛を伸び放題にしていたことは有名な逸話だが、実際には非常に聰明な人物であった。

利常公は、徳川に対しても決して武器は取らないという決意表明として、また利常公自身の興味と美意識のため、加賀百万石の財力を惜しみなく文化の発展に注ぎ込んだ。

十六世紀の桃山文化と十七世紀後半の元禄文化に挟まれた一七世紀前半（江戸時代初期）の文化は寛永文化と呼ばれる。寛永文化は、後水尾天皇を中心とする朝廷勢力と京都の町衆勢力が江戸幕府に対抗する形で生み出したものだとされているが、当時の京都は長期に亘った戦乱で荒廃し、また徳川幕府の政策により皇族や公家の所領は大幅に削減されていたため、朝廷の財力は乏しく、徳川幕府以外には加賀藩前田家しかスポンサーには成り得なかつた。

また、利常公の夫人、珠姫は徳川二代将軍秀忠の娘で、後水尾天皇の夫人東福門院の姉。つまり利常公は後水尾天皇とは義兄弟の関係にあたることから、京都御所を中心に行開された寛永文化と前田家は人的、物的両面で深く関わることとなつた。有名なものでは利常公の四女富姫が嫁いだ八条宮智忠親王の別荘で、ブルーノ・タウト（※）が「泣きたくなるほど美しい」と絶賛した桂離宮（けいりくぐう）である。



小松城の襖絵とされる「唐子琴棋书画遊芸絵巻」（小松市立博物館所蔵、一部拡大）

琴、棋、書画、遊芸の絵が金地に彩色で豪華に描かれている。中国では古くから「琴棋书画は君子のたしなみ」と言われ、日本でも室町時代以後、掛け物・襖絵（ふすまえ）、屏風絵（びょうぶえ）などの題材として盛んに描かれた。

小松市立博物館▷MAP[15ページ③]  
小松市丸の内公園町19



小松城三の丸跡地に作られた芦城公園に立つ前田利常公の銅像

前田利常公の銅像▷MAP[15ページ④]  
小松市丸の内公園町19 芦城公園内

## 裏千家の歴史が始まった小松の地



茶室「仙叟屋敷ならびに玄庵」。京都の北山杉を用いた木造瓦葺平屋建数寄屋造りで、茶庭は、9つの景石を配して仏教の「九山八海」をあらわし、野点もできるよう工夫がなされている。

**pick up ▶**事前に予約すれば見学可。  
[平成25年度の一般公開と呈茶予定] 4/14(日)裏千家、  
5/12(日)煎茶松月流、6/23(日)表千家、11/24(日)裏千家。  
時間は各日とも午前10時～午後3時まで。参加費500円  
問い合わせ／小松市文化創造課 TEL0761-24-8130



創業天保8年(1837)の小松で一番古い和菓子屋、行松旭松堂。くるみを丸ごと1粒使ったお干菓子「雪花糖」は、茶道裏千家十四代・淡々斎宗室が歌を詠むほどお気に入りだったことで有名。写真的上は、裏千家の正月のお菓子「花びら餅」。

行松旭松堂 ▷ MAP [15ページ⑪]  
小松市京町39-2 TEL0761-22-3000



**pick up ▶**店内で抹茶と上生菓子セット800円を味わうこともできる。

信長に仕え、秀吉の盟友であつた初代加賀藩主前田利家公も千利休に師事してわび茶に心酔し、二代藩主利長公も父におとらず茶道に執心した。そして三代藩主利常公は、慶安四年(一六五二)に利休の孫の宗旦(そうたん)の四男、裏千家の仙叟宗室を茶頭茶具奉行として召抱え、小松城三の丸に屋敷を与えた。千宗室は武家だけでなく小松の町衆にもわび茶を教えたと言われ、小松の町衆文化の一つとして裏千家が広まつた。今でも小松では茶道が盛んで、多くの人々の社交の場、そして教養の一つになつていている。

## 利常公と小松の茶道

小松城の三の丸跡に整備された芦城公園に、茶室「仙叟(せんそう)屋敷ならびに玄庵」がある。利常公に仕えた裏千家四代千宗室の没後三百年を記念して先祖の供養のため、平成九年に裏千家十五代鵬雲斎千宗室(ほううんさいせんそうしつ)家元より寄贈されたものだ。

貴族の嗜好品や薬であった茶が、千利休によって「わび茶」という形に昇華されたが、その立役者が織田信長。戦国時代は戦で武功を立てた家臣への恩賞は土地を与えていたが、島国の日本では土地には限りがある。そこで信長は土地の代わりになるものを探し始めた。そ

れが当時、堺で流行し始めたわび茶。それまでは接客の手段や商人の道楽であったわび茶を、信長はその天才的とも言える独自の感覚で政治の手段に利用し、茶道具を土地に代わる新たな価値として押し上げてしまった。茶道具の中には名物として一国一城に匹敵する価値を持つものも出現する。こうしたわび茶の政治利用は信長の後、秀吉によっておしそすめられる。安土桃山時代に大成した利休のわび茶は、天下人になった秀吉という権力者の存在があつたからこそと言える。



龍助町の「お茶の長保屋」は小松の人なら知らないものがいないほど、有名なお茶屋。利常公が山城の国(現京都府)から茶の種を取りよせて、長保屋の当主、長谷部理右衛門に栽培させたのが「加賀茶」の始まりであり、以降、小松は茶葉の一大生産地として、加賀藩のお茶文化を支えた。

長保屋 ▷ MAP [15ページ⑩]  
小松市龍助町81-1 TEL0761-22-1079

## 利常公が種を蒔いた小松の町衆文化の象徴、曳山子供歌舞伎

小松は「歌舞伎のまち」と言われる。それは歌舞伎「勧進帳」の舞台、安宅の関があるからと、近江長浜・武蔵秩父と並び、日本三大子供歌舞伎芝居が演じられるようにき上げてしまつたが、その後、小松の町衆の祭りとして曳山がつくられ、子供歌舞伎芝居が演じられるようになつた。

毎年五月になると小松の町は石川県を代表する祭りの一つ、「お旅まつり」一色となる。この祭りは、利常公が小松城に隠居していた時に、菟橋神社と本折日吉神社の神輿がお城まで出向いて神事を行つたのが始まりとされている。利常が亡くなつた後、家臣たちは金沢へと引き上げてしまつたが、その後、小松の町衆の祭りとして曳山がつくられ、子供歌舞伎芝居が演じられるようになつた。

小松は「歌舞伎のまち」と言われる。それは歌舞伎「勧進帳」の舞台、安宅の関があるからと、近江長浜・武蔵秩父と並び、日本三大子供歌舞伎芝居が演じられるようにき上げてしまつたが、その後、小松の町衆の祭りとして曳山がつくられ、子供歌舞伎芝居が演じられるようになつた。

### 加賀絹と曳山子供歌舞伎

この曳山子供歌舞伎には利常が奨励した加賀絹が大きく関わっている。

小松が発祥の地と言われる加賀絹の歴史は古く四世紀の雄略天皇時代に遡り、天皇家へ奉獻されたり、室町時代に將軍足利氏へ献上したことからその名声が高まり、江戸時代になり利常が加賀絹を奨励したことと、一大産業として発展した。『図説こまつの歴史』によると、当時、小松には絹商売関係の家が五五五軒もあり、その数は小松の諸商売の32%になり、最盛期には十万疋(メートル換算約2500キロメートル!)も生産高を誇った。

この加賀絹の生産に欠かせない生糸は加賀藩領内はもちろん、越中や越前、そして近江長浜からも買入されており、京都で加賀絹を販売する小松の絹商人は、京都の祇園祭や長浜の曳山祭を見て、「小松でも曳山歌

が始まつたと伝えられる。小松城の築城にあたつた大工や工人の流れを汲む小松の職人たちは、長浜から買い入れた曳山を改良し、小松独自の豪華絢爛たる曳山が建造されることになった。

現在は市内中心部の八町が曳山を所有し、毎年当番町の二町が子供歌舞伎を上演する。

### 町衆が支える祭り

小松の曳山子供歌舞伎は女の子が演じるのが特色だ。昔は男の子が演じてきただが、第二次大戦中に男の子は出してはならないということになり、一時は芸妓さんたちが演じていたことでもあった。戦後は町の女の子たちが演じることになり、現在でも基本的に女の子が演じるのだが、最近の児童数減少のため、男の子が出演することもある。子供の歌舞伎だからと言って決して侮ってはならない。厳しい練習に裏打ちされた演技は感動的である。

子供歌舞伎の主役はもちろん子どもたちだが、祭りを取り仕切るのは町の「五人衆」と呼ばれる世話人たち。二四〇年余り、曳山子供歌舞伎を支えてきたのは、利常公の小松を発展させてきた小松の町衆なのだ。



小松市の中心部の新しい観光スポットとして通年で歌舞伎の町小松の魅力を発信する施設が平成25年5月にオープンする。周辺商店街も歌舞伎をキーワードに整備が進められていて、小松の町の魅力がさらにアップする。

こまつ曳山交流館みよっさ  
(完成イメージ図)  
▷ MAP [15ページ⑨]  
小松市八日市町



# 小松産大豆・きな粉を使った 「小松州浜」開発プロジェクト



H23石川県デザイン展でグランプリの石川県知事賞を受賞。同年、金沢ADCで審査員特別賞受賞。  
PickUp 小松州浜は「空の駅こまつ」アンテナショップ及び道の駅こまつ木場潟で、平成25年2月25日から発売を予定しています。



H23石川県デザイン展でグランプリの石川県知事賞を受賞。同年、金沢ADCで審査員特別賞受賞。  
PickUp 小松州浜は「空の駅こまつ」アンテナショップ及び道の駅こまつ木場潟で、平成25年2月25日から発売を予定しています。



小松市で栽培されている大豆は工  
業用の「エンドウ」として、主に  
おもに関東や北陸地方で作られて  
いて、タンパク質が豊富で甘みがあ  
るのが特徴。このエンドウ大豆は、  
漫画『美味しんぼ』で「つややか  
（艶）で美しい（麗）大豆」とい  
うから、漢字で「艶麗（エンドウ）」と  
紹介されている。

「畑のお肉」ともいわれる大豆。日本では古くから豆腐や、味噌、納豆などの伝統的な食品に利用してきた。この日本人には欠かせない大豆は、植物の中でただ一つ肉に匹敵するだけのタンパク質を含有することから、世界的な健康志向の中で「ミラクルフード」として脚光を浴びて、アメリカでは「大地の黄金」とも呼ばれている。

小松市では年間約150トンの大豆が生産さ

れていて、米と大麦に次ぐ特産品。だが、市内

ではほとんど加工されていないのが現状だ。

小松の活性化を目指すNPO団体のチームミ

アルこまつでは、女性の目線から小松産の農産

物を活用した新しいお土産の企画をスタートさ

せるにあたって、この大豆に目をつけた。元パ

ティシェやデザイナーなど女性だけのチーム

は、小松市やJA小松市の支援を受け、昔から

食べられてきて、古くは前田利家公も食べたと

言われる州浜（すはま）（※）を現代風にアレ

ンジすることに。

試行錯誤を重ねた結果、バターを使った「生

州浜」や「チョコ州浜」、トマトなどの野菜の

パウダーを練り込んだものなど、和モダンの州

浜を完成させた。

今回、JA小松市が州浜のために用意したき

な粉は、白くて粒の大きな小松産エンドウ大

豆を短時間で焼せさせ、通常、きな粉作りでは取

り除く皮を付けたまま粉に挽いているので、と

ても香りが良く、小松市内の和菓子屋さんの評

価もとても高い。

今後は、チームリアルこまつが作成した小松

州浜のレシピをもとに、小松市内のお菓子屋さ

んが小松産大豆のきな粉を使い、それぞれオリ

ジナルの小松州浜やきな粉パンなどを開発し、

新たな小松の名物が誕生することが期待されて

いる。

（※）州浜 きな粉を水あめで練つて固めたもので豆  
あめともいい、室町後期から文献に名が見える。後に、  
京都の老舗によって作られた「すはま」の断面が州浜  
紋にそっくりなので、「州浜（すはま）」という名前に  
なったとされている。



△空の駅こまつに関するお問い合わせ  
小松市環境王国こまつ推進本部  
TEL0761-24-8078まで。



△空の駅こまつに関するお問い合わせ  
小松市環境王国こまつ推進本部  
TEL0761-24-8078まで。

# 石川県の空の玄関にアンテナショップ 「空の駅こまつ」開設



## 「空の駅こまつ」

[アンテナショップ] 1回目／1月22日(火)～1月31日(木)8:30～19:00  
2回目／2月25日(月)～3月6日(水)8:30～19:00  
[情報発信スペース] 1月22日(火)～3月31日(日)8:30～19:00

協同組合代表理事組合長などが参加してテープ  
カットが行われた。  
小松空港は年間約300万人の利用客があ  
り、県内外から空港を訪れる観光客、ビジネス  
客に、JA小松市が6次産業化プロジェクトで  
企画開発した農産物加工品など小松市の特産品  
を試験販売し、味やパッケージデザイン、価格



和田慎司小松市長の挨拶



△空の駅こまつに関するお問い合わせ  
小松市環境王国こまつ推進本部  
TEL0761-24-8078まで。



△空の駅こまつに関するお問い合わせ  
小松市環境王国こまつ推進本部  
TEL0761-24-8078まで。



△空の駅こまつに関するお問い合わせ  
小松市環境王国こまつ推進本部  
TEL0761-24-8078まで。

平成25年1月22日、小松市は石川県の空  
の玄関、小松空港にアンテナショップ「空の駅  
こまつ」を開設した。

オープニングセレモニーでは、和田慎司小松  
市長、浅井俊隆石川県企画振興部次長（知事代  
理）、円地仁志小松市議会議長、岡田靖弘北陸  
エアターミナルビル社長、西沢耕一小松市農業

などについてのアンケート調査等を行い商品

の改善や新規商品の開発に役立てる予定だ。

また、ショップに併設して情報発信スペー

スも設置し、小松市の4つのテーマである「乗  
りものまち」、「歌舞伎のまち」、「環境王国  
こまつ」、「科学と交流のまち」の情報発信も  
行う。

小松市の農業加工品や特産品の販売、情報

発信の場は、昨年来場者数、百万人を突破し

た国道8号小松バイパス横の「道の駅こまつ  
木場潟」があり、「空の駅こまつ」と併せて、  
多面的に小松ブランドの発信と、その消費拡  
大を行なっていくことになる。調査結果をも  
とに、今後本格的オープニングを目指す。



△デザインのヒントになつた州浜紋

# 郷谷川沿いを尾小屋まで遡る

小松市の南東部、国道8号線から大倉岳高原に向かう国道416号線をしばらく進むと、梯川の源流にあたる郷谷川沿いに出る。この郷谷川沿いに点在する集落が西尾地区だ。かつては上流に尾小屋鉱山があり尾小屋鉄道が走り、大きく栄えていた。昭和三十七年、三〇〇年の歴史とともに鉱山が閉鎖。そして昭和五十二年には尾小屋鉄道も廃止。全国各地の中山間地区と同様に高齢化と同時に過疎化も進んでいる。だが、そこには日本の原風景のような美しい自然や里山に暮らす人々の大切な思いが息づいている。

## 西尾八景の一つ、十二ヶ滝

西尾地区に入り、国道416号線と県道167号線が分岐する少し手前、左側に見えてくるのが、西尾八景（※）の一つ、十二ヶ滝。滝の名は、梯川の源流の郷谷川の流れがここで12の筋に分かれて落下していることに由来する。滝の落差は大きくないが、滝幅が広く、ナイアガラの滝のミニチュア版といった感じがする。石段があつて滝壺近くまで降りられるので、



十二ヶ滝 ▷ MAP [15ページ⑫] 小松市布橋町  
pick up ▷ 5月には滝の上方に多くの鯉のぼりがかけられます。

## ファンと地元の人が守る美しいシダレ桜、千恵子桜。

国道416号から左にそれは、郷谷川を渡りしばらく行くと、松岡町公民館のすぐそばに通称「千恵子桜」と呼ばれる、高さ約18メートルもの大きなシダレ桜に出会える。平成二十年に石川県内で初めて「日本樹木医会選定 健康優良樹」に選定され

た県内でも屈指のシダレ桜だ。千恵子桜の名の由来は、昭和二十八年に遠くブラジルへ嫁いだ松岡町出身の村中千恵子さんの幸せを願い、親族により植樹されたことによる。他の全国の里山と同様に集落の過疎化が進む中、千恵子さんの親族が引っ越ししてしまったこともあって桜の手入れも行き届かず、一時周辺は草木で荒れ放題になつたが、隣町に移り住んできた濱田みちるさんが樹木医の立花武志さんに相談し、ファンクラブを結成して保存活動を始めた。ファンクラブができたことで地元でも千恵子桜への関心が高まり、ファンクラブの活動がある日には地元の住民の方が昼食をふるまうなど、千恵子桜を中心とした輪が大きくなり、小松市の桜の名所としての知名度もアップしてきている。ファンクラブによる施肥や除草などのかいあって、幹回りは年に4、5センチずつ大きくなっているという。現在の幹周りは2・8メートル。幹周りが3メートルを超えると巨樹と呼ばれるようになつた。

愛樹会・千恵子桜ファンクラブ会長 濱田みちるさん

## 昔の子供は牛乳瓶のフタでメンコ遊びをしたものだ。

本当に牛乳の美味しさを味わえる丸七牛乳。

千恵子桜と別れ、国道416号線に戻り、大倉岳高原方面に少し行くと、塩原という町に入る。この町に目指す丸七牛乳がある。家族四人だけで切り盛りする小松市ではただ一軒となってしまった昭和三年創業の老舗の牛乳メーカー。創業当初は、小松製作所製の機械で牛乳を80度に加熱殺菌したも

なる。そこで、ファンクラブ会長の濱田さんは毎年、幹周りを計測するのが楽しみだと言う。四、五年前から夜間ライトアップもされているので、今年の春はぜひ千恵子桜に会いに行つて欲しい。



昔の子供は牛乳瓶のフタでメンコ遊びをしたものだ。

出来上がった牛乳の配達は早朝と言うか、千恵子桜と別れ、国道416号線に戻り、大倉岳高原方面に少し行くと、塩原という町に入る。この町に目指す丸七牛乳がある。家族四人だけで切り盛りする小松市ではただ一軒となってしまった昭和三年創業の老舗の牛乳メーカー。創業当初は、小松製作所製の機械で牛乳を80度に加熱殺菌したも



丸七牛乳 ▷ MAP [15ページ⑭]  
小松市塩原町290  
TEL/0761-41-1252  
pick up ▷ 個人宅への配達の他、地方発送も可能です。

走行距離50万キロを超えたトラックの前で。右からお父さんの丸七卓夫さん、お母さんの幸子さん、息子さんの徹也さん。



千恵子桜  
▷ MAP [15ページ⑮]  
小松市松岡町  
pick up ▷ 例年の見頃は4月15日頃です。

丸七牛乳の牛乳は濃くて甘いけれど後味はスッキリとしている。その理由は85度の低温で時間をかけて殺菌するよ

るバスチャライズ製法にある。「スーパーで一般的に販売されている牛乳は、120度以上の超高温で殺菌しているので、大量生産が可能で賞味期限も長いが、生乳に含まれる栄養素が変質してしまう。」と丸七さん。バスチャライズ製法は手間も時間もかかるし、日持ちもしないけれど、生乳に含まれる栄養素がそのままに保たれている。小松市内の小学生でも学校の牛乳は飲めないけど、丸七の牛乳なら飲めるという子供がけつこういるそうだ。

また小松市内の老舗の洋菓子屋さんや白山市のパン屋さんも、値段は高くとも丸七牛乳のじゃないと最高のクリームやパンができるからとわざわざ丸七の牛乳を使っているそうだ。



丸七牛乳 ▷ MAP [15ページ⑭]  
小松市塩原町290  
TEL/0761-41-1252  
pick up ▷ 個人宅への配達の他、地方発送も可能です。



KOMATSU  
NISHIO



桜の手入れをするファンクラブのメンバー

た県内でも屈指のシダレ桜だ。千恵子桜の名

の由来は、昭和二十八

年に遠くブラジルへ嫁

いだ松岡町出身の村中

千恵子さんの幸せを願

い、親族により植樹され

たことによる。他の全国

の里山と同様に集落の過

疎化が進む中、千恵子さ

んの親族が引っ越ししてし

まつることもあるて桜の

手入れも行き届かず、一

時周辺は草木で荒れ放題

になつたが、隣町に移り

住んできた濱田みちるさ

んが樹木医の立花武志さ

んに相談し、ファンクラ

ブを結成して保存活動を始めた。ファンク

ラブができたことで地元でも千恵子桜への

関心が高まり、ファンクラブの活動がある

日には地元の住民の方が昼食をふるまうな

ど、千恵子桜を中心とした輪が大きくなり、

小松市の桜の名所としての知名度もアップ

してきている。ファンクラブによる施肥や

除草などのかいあって、幹回りは年に4、

5センチずつ大きくなっているという。現

在の幹周りは2・8メートル。幹周りが3

メートルを超えると巨樹と呼ばれるようになつた。



## 東京のレストランの シェフも絶賛する 西田農園の有機野菜。

丸七牛乳から1キロほど山の方へ進む。郷谷川の支流、西俣川沿いの岩上という町に、栽培する有機野菜の種類の多さでは国内屈指の西田農園がある。お二人とも野菜ソムリエの資格を持つ西田俊一さん、幸恵さんご夫妻が、里山の自然豊かな土地でミ



西田さんご夫妻と研修生のスチュワートウイン・アンドリューさん（オーストラリア出身）と山岸宏平さん。二人とも将来は有機農業を目指す。

西田農園MAP [15ページ⑯]  
小松市岩上町イ149 TEL:0761-41-1647 <http://www.nishitanouen.com/>  
pick up▶※西田農園さんで野菜を購入希望の方は、事前にお電話やホームページでお問合せください。

ネラル豊富な西俣川の清流と手作りの有機肥料を用いて完全無農薬でハウスと露地を合わせて年間70種類以上の野菜を育てている。

ハウスを見せてもらつてまず驚くのが、様々な種類の野菜がまるで西洋ガーデニングのように整然と美しく栽培されていることだ。ご夫妻によると、手入れをしないと畑は雑然となる。丁寧に愛情を込めて育てていると自然にこうなるんだとか。ただそのための苦労は並大抵ではない。毎朝6時前から野菜に付いている害虫を一匹一匹手で取ることから仕事が始まる。肥料も自分で様々な素材を発酵させて自分で作る。西田さんいわく、発酵食品を使って野菜を育てているようなものだとか。

西田農園の設立は二〇〇八年。ご主人の俊一さんがサラリーマンを退職してからだが、そもそもスタートは奥さんの幸恵さんが今から二十年ほど前に家庭菜園で無農薬野菜を作り始めた時に遡る。俊一さんは会社勤めのかたわら、奥さんを手伝つていながら、次第に有機による安心安全で美味しい野菜作りに魅せられるようになつたそうだ。

ご夫妻は、野菜本来の美味しさを味わつて欲しいと、生食用のサラダ野菜に力を注いでいる。摘みたての「紫からし菜」を食べさせてもらう。優しい辛味と野菜本来の甘味が入り混じった爽やかな味が口中に広がる。種類の多さと美味しさが口コミなどで広がり、西田さんの野菜しか食べられないところだ。

西田農園さんからすぐ近く、同じ岩上町内にあるのが烏帽子岩。高さ27メートルの大岩で、その形が烏帽子に似ていることからこの名が付けられ、村人から岩神様として崇敬されてきた。すぐそばには岩上神社がある。この地名、岩上はもともと岩神だったのが、昭和の初めに、あまりに恐れ多いというので、地名を岩神から岩上に改められた。

それにもなんとも絶妙なバランスで巨石がせり出している。落ちそうで落ちないということで小松の隠れたパワースポット

個人でも西田農園さんへ行つて直接旬の新鮮な野菜を購入することも可能なので、美味しい有機野菜を食べたい方は電話をしてからお出かけ下さい。

百屋にも出荷している。

## 隠れたパワースポット、 烏帽子岩

西田農園さんからすぐ近く、同じ岩上町内にあるのが烏帽子岩。高さ27メートルの大岩で、その形が烏帽子に似ていることからこの名が付けられ、村人から岩神様として崇敬されてきた。すぐそばには岩上神社がある。この地名、岩上はもともと岩神だったのが、昭和の初めに、あまりに恐れ多いというので、地名を岩神から岩上に改められた。

それにもなんとも絶妙なバランスで巨石がせり出している。落ちそうで落ちないということで小松の隠れたパワースポット



昭和11年当時の尾小屋鉱山。製錬所から出る煙害のため、山肌はハゲ山となっている。現在は植林により緑が蘇っている。  
写真提供:石川県立尾小屋鉱山資料館

## 小松の大切な産業遺産、 尾小屋鉱山資料館と ポッポ汽車展示館。

鳥帽子岩に別れを告げ、3キロほど進めば尾小屋鉱山資料館がある。尾小屋鉱山は一六八二年（天和二年）に発見されその後、一九六一年（昭和三十七年）の閉山まで約三百年近く採掘され続けた鉱山。一時は國內でも有数の銅鉱山となり、「北陸の鉱山王」とも呼ばれた尾小屋鉱山を経営する加賀藩の家老山を経営する松江藩の家老山である。横山金沢の経済も支え、加賀百万石の伝統文化の継承に寄与したとも言われる。だが、その後の鉱量激減や国際相場の下落など

トらしい。以前、道路はこの巨石の真下を通っていたのが、やはり危険だということで、西俣川寄りに移動したそうだ。ちなみに、最初に紹介した十二ヶ滝と同様に、この鳥帽子岩も西尾八景の一つとして指定されている。

鳥帽子岩に別れを告げ、3キロほど進めば尾小屋鉱山資料館がある。尾小屋鉱山は一六八二年（天和二年）に発見されその後、一九六一年（昭和三十七年）の閉山まで約三百年近く採掘され続けた鉱山。一時は国内でも有数の銅鉱山となり、「北陸の鉱山王」とも呼ばれた尾小屋鉱山を経営する加賀藩の家老山である。横山金沢の経済も支え、加賀百万石の伝統文化の継承に寄与したとも言われる。だが、その後の鉱量激減や国際相場の下落など

## 大倉岳高原スキー場

大倉岳高原スキー場の歴史は、尾小屋鉄道の開設とともに始まり、石川県内では最も古いスキー場。尾小屋鉱山閉山後、衰退する町を活性化させる起爆剤として昭和四十年、1400メートルのゲレンデ、ロッジ、800メートルと400メートルの二基のリフトを備え、当時、北陸で最大級のスキー場がオープンした。当初は関西方面を中心に一日六千人が訪れる大盛況となつた。

初級者向けのコースが多いが、各所に急



### 大倉岳高原スキー場MAP [15ページ⑩]

小松市尾小屋町レ41番地 TEL 0761-67-1426

営業時間／8:00~21:20

ナイター／1・2月 17:00~21:20 (金・土・祝前日は17:00~22:50)

休業日／期間中無休

pick up▶オフシーズンには春から秋にかけパラグライダーの講習バーン、初秋にはコスモス祭りも開催され人気となっている。

で閉山に至つた。現在は石川県立尾小屋鉱山資料館として、鉱山の歴史的資料や様々な鉱物とともに、観光坑道「尾小屋マイロード」として一般公開されている。

### 尾小屋鉱山資料館とポッポ汽車展示館MAP [15ページ⑯]

小松市尾小屋町カー1-1 TEL 0761-67-1122

営業時間／9:00~17:00(入館は16時30分まで)

休館日／水曜日(水曜日が祝日のときはその翌日)、祝日の翌日、12月1日~翌年3月24日(冬期休館)

斜面やコブ斜面、変化のある中斜面などがあり、中・上級者も楽しめる。スノーボードも全コース滑走可能。県内で最大規模を誇るナイター設備で、祝祭日前と金・土曜は夜10時50分までとたっぷり滑れる。それ以外の日は夜9時20分まで営業。

尾小屋マイロードの内部  
当時の作業風景が復元展示されている

ポッポ汽車展示館に展示される蒸気機関車

### 鳥帽子岩MAP [15ページ⑯]

小松市岩上町口158



## 小松いぐさ 宮本 隆史

小松市白江町タ413番地  
TEL・FAX:  
(0761) 22-4696  
▷MAP[15ページ③]

家業だけでなく小松の農業の発展のためにも尽力している。

「生活様式が変わり住宅の造りも変わってきました。でも、日本の風土や日本人の生活の中で、畠の上でくつろぐことは、心を落ち着かせ、安らぎの時を与えてくれます。私は、北陸の家の安らぎの場である畠の間を小松畠表で演出したいと考えています」と宮本さん。

本誌の冒頭で紹介した小松いぐさを栽培し、畠表を作っている宮本隆史さん。現在、小松市でただ一軒となつたいぐさ農家だ。隆史さんは四代目。初代の七次郎さんが明治の後期にいぐさ栽培を始めた。

一般の人は、畠はいぐさ農家が栽培したいぐさを畠屋が織つて畠に仕上げていると勘違いしている場合が多いが、実際は、いぐさ農家が農閑期の冬の仕事として畠表を織つて、それに畠屋が芯の部分の畠床を重ねたものに、畠縁を縫いつけて畠の出来上がりとなる。だからいぐさ農家は原料を作る一次産業であり、また畠表という製品を加工する二次産業でもあるのだ。

昭和三十三年生まれの宮本さんは、小学生の頃から家の仕事を手伝う中で、いぐさ農家の仕事はきついけれども、面白さを感じていたと言え。石川県農業短期大学（現石川県立大学）を卒業後、熊本のいぐさ農家で修行。小松に帰つてからはお父さんの達夫さんに本格的にいぐさ栽培や稻作などの農業を学んだ。JA小松市ではいぐさ青年部長やいぐさ部会長を務めるなど、



隆史さんのお父さん、達夫さん（83歳）とお母さんの公恵さん（78歳）もまだ現役で畠表作りを行なっている。

写真左が宮本隆史さん。中央は島内たたみ店三代目の島内智唱さん、右が島内たたみ店四代目予定の島内優弥君。島内たたみ店さんが作る小松畠表の「置きたたみ」は石川ブランドに認定され、人気の商品となっている。



縦糸といぐさを畠表に織り上げる機械の前で。小松のいぐさ農家が宮本さん1軒となつたため、いぐさを畠表に織る機械の修理は、メーカーが小松まで来なくなり、宮本さんが自分で修理しないといけない。

## 西太兵衛さん 西太兵衛さん

第四回米・食味分析鑑定コンクール・国際大会

米・食味鑑定士協会が主催する「第四回米・食味分析鑑定コンクール・国際大会」が二〇一二年十一月二十二日・二十三日に長野県木島平村で開催され、3915点の出展の中から、高堂町の西太兵衛さんが環境王国部門で特別優秀賞を受賞されました。子どものころから親の手伝いをして米づくりに携わってきたたといふ西さんは、賞状を手に「一生懸命やつていることが評価されてうれしい」と話していた。



JAあぐり▷MAP[15ページ⑨]  
小松市日末町い59-1 TEL:0761-43-0351  
営業時間:  
【10月~3月】  
午前8時30分~午後6時(定休日・火曜日)  
【4月~9月】  
午前8時30分~午後7時(無休)



地産地消の推進を行う拠点として、地域の農産物や加工品の販売、米の直売などを行なっているJAあぐり。「安心」「安全」「新鮮」な農産物を求めて毎日多くの市民が訪れる。

▼トマティ170グラム入り 630円（税込）  
道の駅こまつ木場潟 JAあぐりでお買い求めいただけます。

北陸有数のトマトの産地、小松市。JA小松市の六次产业化プロジェクトでは、名産のトマトを使った加工商品の開発に取り組んでいて、第一弾のトマトカレーが人気商品となつていて。昨年の夏に発売開始したトマティはその第二弾で、トマト2個分を煮詰めてそこにニンジンを加えてお湯や水、炭酸水や焼酎で割つたりと色々な味わいができて人気だ。

## ---Editor's Choice--- ● 編集部おすすめ情報 ● トマトのお茶「トマティ」



## 環境王国こまつ

「環境王国」とは、米・食味鑑定士協会や大学教授など有識者による「環境王国認定協議会」が、自然環境と農業のバランスが取れ、安心な農産物の生産に適した環境を認定するものです。